

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-21 ことばと文 化	20130586014901	●ことばと文化 I (マスメディ アと表現)	和	E	橋本 健 夫	1年,2年,3年,4年	後期	木 2	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-21 ことばと文 化	20130586015301	●ことばと文化 (ITとこと ば)	和	E	福田 正 弘	1年,2年,3年,4年	前期	月 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-21 ことばと文 化	20130586015701	●ことばと文化 I (心とこと ば)	和	E	内野 成 美	1年,2年,3年,4年	後期	木 1	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-21 ことばと文 化	20130586015801	●ことばと文化 I (ジェン ダーとこと ば)	和	E	植木 と み子	1年,2年,3年,4年	後期	金 2	～

[戻る](#)

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-21 ことばと文化**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586014901	科目番号	05860149
授業科目名	●ことばと文化Ⅰ(マスメディアと表現)		
編集担当教員	橋本 健夫		
授業担当教員名(科目責任者)	橋本 健夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	橋本 健夫, 高橋 信雄, 関口 達夫		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	hasimoto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部515号室		
担当教員TEL	095-819-2338		
担当教員オフィスアワー	月曜～金曜の12:00-12:50		
授業のねらい	文化は作られると同時に伝えられ、深化していくものである。この伝達に大きな役割を果たしているのがマスメディアである。日常の媒体となっている新聞やテレビに焦点を当て、そこで用いられる表現方法を理解するとともに、それらをどのように受け取るべきなのかを考える。		
授業方法(学習指導法)	担当は橋本、関口、高橋の3名である。この授業においては、予習を重視し、それをもとにした討論での展開を中心とする。学生一人一人がそれぞれの課題に向き合い、意見を持って授業に臨むことが重要となる。		
授業到達目標	①マスメディアが社会の事象をどのように取り上げ、表現するかを理解する。 ②マスメディアからの発信をどのように受信すれば良いかを理解する。 ③自己の意見を持ち、それをどのように発信すれば良いかを理解し、実践できる。		
	回	内容	
	1	10月5日(橋本、関口、高橋) 本授業のねらいを説明するとともに、各担当者のこの授業に対する想いを紹介する。そして、各担当者の内容を知らせ、課題等を提示する。	
	2	10月12日(橋本) 市民にとってマスメディアの役割は何かを具体的事例を挙げて議論する。	
	3	10月19日(橋本) 受講生が最も重視する具体例について意見を述べる。	
	4	10月26日(関口) 日常生活におけるテレビの役割について議論する。また、受講生がある事象を取り上げ、それをどのように表現していくかについて考えるとともに発表する。	
	5	11月2日(関口) 事象を変えて、発信方法を考え、それを批判的に受信することについて考える。	

授業内容	6	11月9日（関口） ”
	7	11月16日（高橋） 日常生活における新聞の役割について議論する。また受講生がある事象を取り上げ、それをどのように表現していくかについて考えるとともに発表する。
	8	11月30日（高橋） 事象を変えて、発信方法を考え、それを批判的に受信することについて考える。
	9	12月7日（高橋） ”
	10	12月14日（橋本） 受講生が新聞記者、あるいはテレビ記者になり、興味ある事象の発信方法を考え、それを紹介する。また、それについて批判を行う。
	11	12月21日（橋本） ”
	12	1月4日（橋本） ”
	13	1月11日（橋本） ”
	14	1月25日（橋本、関口、高橋） 批判を受けて修正したものを発表し合う。
	15	2月1日（橋本、関口、高橋） ”
	16	一つの課題をどのように発信するかについて論述テストを行う。
キーワード	マスメディア、発信構成、発信方法、批判的受信	
教科書・教材・参考書	毎日の新聞、テレビ	
成績評価の方法・基準等	予習課題（30%）、授業での発表（40%）、論述テスト（30%）	
受講要件（履修条件）	予習する態度が身に付いていること。自己の考えをまとめることができること。	
本科目の位置づけ	ことばと文化におけることばの表現の重要性と認識する。	
学習・教育目標	課題を見つけ、主体的に取り組む。並びに友人の考えに耳を傾けること。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	それぞれの時間に指示をする。	





タイトル「2013年度シラバス(教養教育科目)」、開講所属「教養教育-教養教育 全学モジュール I 科目-21 ことばと文化」シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586015301	科目番号	05860153
授業科目名	●ことばと文化(ITとことば)		
編集担当教員	福田 正弘		
授業担当教員名(科目責任者)	福田 正弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福田 正弘, 全 炳徳		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-26		
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	fukuda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部553室		
担当教員TEL	819-2315		
担当教員オフィスアワー	水3		
授業のねらい	IT機器を制御することばを理解するとともに、ITを活用したコミュニケーションの重要性を学ぶ。また、IT機器の操作を通して、生活を豊かにするIT活用法を学ぶ。さらにIT活用の倫理も身に付ける。		
授業方法(学習指導法)			
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会におけるITの活用とその制御の仕組み、種々の課題について関心を持ち、主体的に課題解決に向け探求しようとする。</li> <li>2) ITを制御している各種言語を理解し、IT機器を使った表現活動を通してその意味を説明できる。</li> <li>3) ITを活用した社会シミュレーションにおいて、協同して意思決定するとともに、社会認識上の意味を考えることができる。</li> <li>4) IT機器の操作を通して、目的にあった適切な情報処理ができる</li> </ol>		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>【1部 ITを支える言語】</li> <li>2 マッピングプラザを支えるIT言語とIT機器</li> <li>3 マッピングプラザを支えるIT言語を体験①</li> <li>4 マッピングプラザを支えるIT言語を体験②</li> <li>5 マッピングプラザを支えるIT機器を体験①</li> <li>6 マッピングプラザを支えるIT機器を体験②</li> <li>7 マイ・マッピングプラザの作成</li> <li>8 マイ・マッピングプラザの発表・評価</li> </ol>		

授業内容	<p>【2部 ITを用いた意思決定】</p> <p>9 ガイダンス・課題提示・グルーピング</p> <p>10 シミュレーション1</p> <p>11 シミュレーション結果の分析・発表準備</p> <p>12 発表と相互評価・反省</p> <p>13 シミュレーション2</p> <p>14 シミュレーション結果の分析・発表準備</p> <p>15 発表と相互評価・反省・まとめ</p> <p>16 試験</p>
キーワード	IT 言語 マッピング シミュレーション
教科書・教材・参考書	適宜、指示する。
成績評価の方法・基準等	<p>1部2部各50%で、合計60%以上が合格。 欠席が1/3以上の場合は失格。</p> <p>評価の方法・観点 1部2部共に、授業中の学習状況、レポート等の課題の成果物、発表内容と態度、試験を総合的に判断する。グループによる活動については、グループの協力状況も評価の対象とする。</p>
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-21 ことばと文化**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586015801	科目番号	05860158
授業科目名	●ことばと文化Ⅰ（ジェンダーとことば）		
編集担当教員	植木 とみ子		
授業担当教員名(科目責任者)	植木 とみ子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植木 とみ子		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生（クラス等）	全学生		
担当教員Eメールアドレス	tuterrace@fcv.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL	092-521-6851		
担当教員オフィスアワー	上記または 090-4994-5830 にTELして、ご相談下さい		
授業のねらい	日本語において、ジェンダーはどのように表現されているのか、またジェンダーは言葉を使う行為によりどのように形成されて来たのかを読み解き、ジェンダーの本質に迫りたいと思っています		
授業方法（学習指導法）	非常に斬新な分野です。様々な文献をみなさんと一緒に読み進めて、共に考えて行きたいと思っています。できるだけ質問をなげかけますので、みなさんには積極的に参画していただきたいと思っています		
授業到達目標	すぐにはものの見方、考え方が変わるとは思われませんが、少なくとも身の回りの事象を歴史的大局的に見る訓練をする事により、グローバルスタンダードを持ち、今の日本の閉塞状況を打ち壊すことができるような、自立した大人になるお手伝いをします		
授業内容	私たちは、ことばによりいかに規定されているか、このことを考えた事があるでしょうか？ 1は問題提起、2～7は女性が様々な場面でどう表現されているか、8、9は女性自身のことばがどう作られて来たかを見ます。 10～13では、男性性、女性性が作られた過程を構造主義を通して再度考察します。14、15で、これらの状況が政治的に作られたものであり、本質的なものではないということについて考えてみたいと思っています。 新しい自分を発見できるかもしれません。		
	回	内容	
	1	「福岡市かわいい区」について	
	2	うたに表現された女たち	
	3	日常語に見る女の一生、男の一生	
	4	名言？に見る女	
	5	日本のことわざの中の女	
6	世界のことわざ、宗教の中の女		

	7	日本語と女
	8	女ことばの歴史（古代、封建時代）
	9	女ことばの歴史（明治以降）
	10	男らしさはどう作られてきたか
	11	男性性とことば
	12	女らしさはどう作られてきたか
	13	女性性とことば
	14	女ことばの政治的機能
	15	問題に立ち向かうために
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書		プリント配布、そのつど参考文献を紹介する
成績評価の方法・基準等		授業での積極的発言、毎回の短い感想文、定期試験の成績を総合評価する
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-21 ことばと文化**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586015701	科目番号	05860157
授業科目名	●ことばと文化Ⅰ(心とことば)		
編集担当教員	内野 成美		
授業担当教員名(科目責任者)	内野 成美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	内野 成美		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生（クラス等）	学校教育教員養成課程2年		
担当教員Eメールアドレス	soudan@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部シンフォニー 1階		
担当教員TEL	095-819-2297		
担当教員オフィスアワー	随時 まずはメールで確認を		
授業のねらい	心とことばの関係を臨床事例を通して理解する。また、カウンセラーの役割を通すなかで、ことばを用いて相手を理解し、自己を表現する方法を身につける。		
授業方法（学習指導法）	講義と対話、フィールドワーク		
授業到達目標	① コミュニケーションを支えることばの意義を理解することができる。 ② ことばの持つ内面性について理解することができる。 ③ 多様な言葉を使って、適切なコミュニケーションができる。		
授業内容	回	内容	
	1	ことばとは	
	2	心の発達	
	3	ことば・社会性の発達	
	4	ことばの発達の遅れについて①	
	5	ことばの発達の遅れについて②	
	6	心とことばの発達のまとめ	
	7	コミュニケーション① 非言語的コミュニケーション	
	8	コミュニケーション② 傾聴訓練	
	9	自分を説明する	
	10	他者を理解する	
	11	対人関係の困難について①	
12	対人関係の困難について②		

	13	心に寄り添う
	14	アサーション・トレーニング①
	15	アサーション・トレーニング②
	16	まとめのレポート
キーワード	カウンセラー 心理相談 臨床心理士	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。授業時に資料を配付する。	
成績評価の方法・基準等	授業参加度・演習（40%）,小レポート（30%）,まとめのレポート（30%）	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	自分を理解するとともに、人を理解するときの多様な視点の存在を知り、活動に生かすことができる	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	適宜指示する	

